

八幡山教王護国寺秘密伝法院

〔東寺又左寺とも号す〕大宮の西八条の南にあり、真言宗の源にして、開祖は

弘法大師。旧此地は大内裏の鴻臚館にして、来朝の賓客を設る所なり。漢朝の鴻臚館を不空三蔵に給て精舎を営し其例に准じて、弘仁四年左寺を空海に給ひ、右寺を守敏に賜ふ。抑弘法大師は讚州多度郡屏風浦の産にして、光仁帝宝亀五年に誕じ給へり、十八歳にして大学に至り志仏経にありて遂に出家して、延暦十四年東大寺の檀にのぼり、具足戒をうけ、名を空海と改む。靈夢によりて和州高市郡久米道場の東塔の下にて、大毘盧遮那神変加持経を得たり。文議曉しがたければ延暦廿三年五月に入唐して、唐の貞元廿一年二月十一日、青龍寺の慧果阿闍梨に謁し、かの経の奥義真言秘密をつたへ、大同元年十月に帰朝して伝来の密法を弘む。ある時嵯峨天皇勅ありて、内裏において諸宗の名僧をあつめ、空海にめんく尋る所の宗義を論せさせ給ふに、空海の曰、我宗は大日神変の真言一度阿字を觀すれば即身成仏すといへり、諸宗一同にこれをやぶり議論をさまらざりければ、帝空海に即身成仏のしるしをなすべしと勅ありければ、則五藏三摩地觀に入、忽首より五仏の宝冠を出し身より五色の光明を放ち、面貌金色にして毘盧遮那仏となる。帝は御座よりくだり給ひ、諸宗の僧は合掌して地にふしけり、これより議論なかりければ、宗風日本に弘り、弘仁七年に紀州高野山を賜て金剛峰寺を建立し、仁明帝御宇承和二年三月廿一日六十二歳にして高野山に入定し給ふ。其後延喜廿一年に弘法大師と諡を宣下し給へり。〔日本に生死不思議の人三人あり。生あつて死なきは空海、死はあつて生のなきは天満神、生も死もなきは人丸なり〕

金堂〔本尊は薬師仏、脇士は日天月天なり、焼失の後豊臣秀頼公の再建なり。洛東大仏殿の模形なり〕講堂〔本尊は大日如来、脇壇には金剛菩薩五大尊四天王等を安置す〕食堂〔本尊は千手千眼観世音、聖宝僧正の作なり。脇士は地藏毘沙門天を安置す、地藏尊はいにしへ西寺にあり、毘沙門天は羅城門の楼上にありしなり〕夜叉神〔いにしへは食堂の門に安置す、今礎石あり、左右の小堂に雌雄の夜叉神を安ず、大師の御作なり〕五重塔〔四仏を安ず、兵火の為に焼失す、後御当家の再建なり。此塔一トとせ南の方へ傾く、これによつて北の方に池を堀て其傾を直にす〕灌頂院〔秘密灌頂の所なり〕八幡宮〔大師神影を拜して彫刻し給ふ神像なり、当寺の鎮守とす〕八島社〔当寺建立以前の勧請なり。故に地主の神とす〕宝蔵〔大師の法器を蔵む、巡りに池あり〕瓢箪堀〔宝蔵の南の池をいふ、瓢箪の形なり〕南大門〔二階の楼門なり、金剛力士を安置す、東は運慶の作、西は湛慶の作なり〕慶賀門〔東の門をいふ〕蓮華門〔西の門をいふ、大師入定るとき此門より出給ふなりとぞ〕猫瓦〔巽の方の築地の上にあり。此築地造営の時は梶原景時奉行すといひ伝へ侍る〕西院開祖弘法大師の影を安置す。〔法眼康勝の作なり。後堂には大日不動尊四天王般若菩薩を安ず、大師の作なり〕大黒天〔西の院の傍に安ず、大師の作なり〕愛染明王〔宝持坊に安置す〕五宝石〔後堂の白砂にあり、一名不動石ともいふ〕三鉢松〔西の院のまへにあり、大師唐土より帰朝のとき、我密教相應の地あらば此三鉢止るべしと空中に投給ふ、上洛の後此所の松枝に止りけり、故に名とす。三葉の松なり〕松子房松〔西の院の乾にあり〕

桜雲記に曰　元弘三年五月六波羅を攻落す趣き船上山に注進す、後醍醐天皇則入洛あり、播州書写山にて新田義貞よ

り北条高時滅亡の事を注進す、楠正成兵庫にて迎奉る時に、勅願によつてまづ東寺へ行幸、松子房にて此松の事を問給ふに、ことよしを奏して、前大僧正頼意これを詠ず。

植置しむかしやかかねて契りけんけふの御幸を松風の音